

16年半を振り返って

「こんにちは市長です！」最終章！



平成29年9月10日の任期満了をもちまして宇和島市長の職を退任することとなりました。

平成13年2月8日に市長として初登庁してから、16年半もの長きにわたり、市民の皆様からの温かいご支援とご協力をいただき、宇和島市長としての職務を全うすることができましたことに対して深く感謝とお礼を申し上げます。

在任中、1番印象に残っていることは、就任わずか3日目に起きた県立宇和島水産高校の実習船えひめ丸がアメリカの原子力潜水艦に衝突され沈没した事故です。実習生ら9人が亡くなった大変残念な出来事ではありますが、この出来事を契機として、ハワイ州ホノルル市と姉妹都市となり、両市の交流が始まりました。これからも、えひめ丸事故を風化させることなく、両市の交流が続くことを期待しております。

平成17年8月には、宇和島市、吉田町、三間町、津島町の1市3町が合併し、新「宇和島市」が誕生いたしました。新市におきましても、市民の皆様のご代表として、初代宇和島市長に選任していただき、市の基本理念である「人と交わり、緑と話し、海と語らうきらめき空間都市」の実現を目指して、市政を行ってまいりました。まずは市の基盤がしっかりしたものでなければならぬと考え、行財政改革を徹底的に実施しました。

その結果、財政の健全度を示すおもな指標である、経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率のいずれも県下11市のトップクラスまで改善することができ、平成28年度を「財政改革完了の年」と宣言しました。

また、改革を継続しながら、市立宇和島病院の改築、高速道路の津島町までの開通、昨年には九島大橋も完成させることができました。さらには、学校の耐震化や改築、住民サービスの窓口となる支所の改築、民間活力を利用しての特別養護老人ホームの新築など、駅前複合施設や長堀でのプール建設など継続中の事業も含め、さまざまな建設事業を実現することができました。これらの事業は、今後の市民生活と地域の活力を増加させる中核施設として有効に機能するものと思えます。

しかしながら、これらのハード整備だけでは本市の最大の課題であり、日本の最大の課題でもある人口減少対策には全く不十分とも言えます。この問題に対する対応策としては、市民が安心して働ける産業の再構築と、思い切った子育て支援策を行政が実行する必要があると考えます。

産業の活性化については、本市の豊かな産品を国内、そして世界にもPRし、営業の専門部署も設置しています。また、販売と宣伝の中核施設として、きさいや広場



えひめ丸慰霊碑



市立宇和島病院



津島中学校



吉田支所



九島大橋



を開設し、生産の1つの拠点として源吉兆庵愛媛宇和島工場も建設中です。長期間低迷の続いた1次産業も関係者の努力の結果、柑橘、真珠、タイ養殖の分野では明るい兆しも見られ、今後、後継者不足の解消を期待しています。

子育て支援策としては、国の地方創生の資金を利用して拡充を図っていますが、効果が顕在化するまで拡充と継続をする必要があると思いますし、国全体で年間30万人以上の人口減となっている現状からすると、地方が努力することはもちろんですが、国の施策として

緊急かつ大胆に取り組んでいただきたいと思っております。

在任した16年半、いろいろなことをさせていただきましたが、こうやって振り返ってみると、まだまだやり残している課題があると反省します。しかし、一方で16年以上もやらせていただいでできなかったことは、次のリーダーのもとでより良い形で実現してもらえれば良いと思います。

今は、只々16年半もの長い間ご支援くださいました市民の皆様にご感謝申し上げます、筆を置くこといたします。

本当に長い間

ありがとうございました。

石橋寛久

